

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年9月25日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|-------------|
| 事業所番号 | 2870200629 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 光朔会 | | |
| 事業所名 | グループホームオリンピア灘 | | |
| 所在地 | 神戸市灘区灘北通3丁目1-15 (電話)078-871-7227 | | |
| 評価機関名 | 株式会社H.R.コーポレーション | | |
| 所在地 | 兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年8月12日 | 評価確定日 | 平成20年11月10日 |

【情報提供票より】 (20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------|-------------------------|------|
| 開設年月日 | 37530 | | |
| ユニット数 | 3 ユニット | 利用定員数計 | 27 人 |
| 職員数 | 25 人 | 常勤20人, 非常勤4人, 常勤換算21.8人 | |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------|-----|-----|
| 建物構造 | 鉄筋 造り | | |
| | 3階建ての | 1~3 | 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------|----------------|-----------|
| 家賃(平均月額) | 80,000 円 | その他の経費(月額) | 30,000 円 |
| 敷金 | 有(円) ⑤ | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(500,000円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 450 円 |
| | 夕食 | 450 円 | おやつ 150 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 27 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 25 名 |
| 要介護1 | 4 | 要介護2 | 8 | | |
| 要介護3 | 8 | 要介護4 | 7 | | |
| 要介護5 | | 要支援2 | 0 | | |
| 年齢 | 平均 86.1 歳 | 最低 | 68 歳 | 最高 | 94 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------|
| 協力医療機関名 | 神戸海星病院 ・ 小田歯科医院 |
|---------|-----------------|

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の整備された運営方針と体制の下、質の高いサービスが提供され、ご利用者・ご家族・地域から厚い信頼と協力を得ている。「主人公であるご利用者の今まで通りの誇りを持った暮らしをイエスキリストの愛と奉仕の精神を持って支援していく」という理念が、職員全員に浸透し、日々のケアの実践に反映され、ご利用者への細やかな接遇に現れている。法人全体として職員育成の体制が確立されており、各自の段階に応じた向上心を持ち続けられる学びの場が提供され、職員の技術面だけでなく人間的な成長がサービスの質のさらなる向上に繋がるように取組まれている。今年度から海外研修を開始するなど、現状に満足せず、新たな取り組みを続ける法人としての水準の高さを感じられる。

【重点項目への取組状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) |
| | 前回の評価結果はカンファレンスで公表・説明し、職員間で共有し、事故報告のデータ化と分析・ご家族への文書での報告など、サービスのさらなる向上に活用した。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:第三者4) |
| | 今回の受審については、カンファレンスで内容・受審の意義などを説明し、各フロアでフロア長を中心に職員全員の意見を取り入れて自己評価票を作成し、管理者がまとめて完成させた。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:第三者4,5,6) |
| | ご利用者・ご家族・自治会長・地域住民・地域包括センター職員・知見者・職員など、多数の参加者があり、2ヶ月に1回開催されている。ご利用者の近況報告を初め、ホームでの行事報告・予定のお知らせなどが、映像・写真などを用いて、わかりやすく伝えられている。また、課題やテーマについて活発に意見交換が行われたり、情報提供があるなど、サービスの質の向上に具体的に活かされている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) |
| | 日頃からご家族の面会が多いため、面会時にご家族から意見・要望がうかがえるように職員の方から積極的に働きかけている。運営推進会議・家族会・懇親会・行事などでも、活発に意見交換ができるような雰囲気作りにも努めている。収集した意見・要望は、「ご家族との連絡ノート」に詳細に記録すると共に、申し送りノート・カンファレンスなどでも職員間の情報の共有を図り、問題解決・要望の実現などに向けて全員で取組んでいる。また、定期的に満足度調査を行い、サービスのさらなる向上に活かしている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) |
| 重点項目 | 自治会に加入し、地域の行事・会合などにご利用者と共に参加している。地域の児童館・保育園との交流の機会も多く、ご利用者の大きな楽しみとなっている。日常的にも、買物・散歩途中で地域の方と顔見知りの関係が作られており、見かけた場所の情報が得られるほど関係が深まっている。また、施設で困りごとができた時も、自治会長を中心に地域から解決策の提案があるなど、地域の一員として定着していることが伺える。 |

2. 第三者評価結果票

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|----|--|--|---------------------|-----------------------------------|
| ・理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「主人公はご利用者」「今まで通りに誇りを持った暮らしを安心して続けるお手伝いを、イエスキリストの愛と奉仕の精神を持ってさせていただく」ことを理念としている。「今まで通りの生活の継続の中」に、「家庭的な環境」「地域との交流」という「地域密着型サービスとしての理念」が含まれているという共通認識を持っている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 館内に掲示し、毎朝の朝礼で唱和し、ミーティングなどで理念に立ち戻って話し合うなど、理念がケアに具体化できるように日々取り組んでいる。また、昇進試験の時に理念が正確に言えるか、書けるかを問い、浸透を確認している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会に加入し、地域の行事・会合などにご利用者と共に参加している。地域の児童館・保育園との交流の機会も多く、ご利用者の大きな楽しみとなっている。日常的にも、買物・散歩途中で地域の方と顔見知りの関係が作られており、見かけた場所の情報が得られるほど関係が深まっている。また、施設で困りごとができた時も、自治会長を中心に地域から解決策の提案があるなど、地域の一員として定着していることが伺える。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|---|---------------------|-----------------------------------|
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | <p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> | <p>前回の評価結果はカンファレンスで公表・説明し、職員間で共有し、事故報告のデータ化と分析・ご家族への文書での報告など、サービスのさらなる向上に活用した。今回の受審については、カンファレンスで内容・受審の意義などを説明し、各フロアでフロア長を中心に職員全員の意見を取り入れて自己評価票を作成し、管理者がまとめて完成させた。</p> | | |
| 5 | 8 | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>ご利用者・ご家族・自治会長・地域住民・地域包括センター職員・知見者・職員など、多数の参加者があり、2ヶ月に1回開催されている。ご利用者の近況報告を初め、ホームでの行事報告・予定のお知らせなどが、映像・写真などを用いて、わかりやすく伝えられている。また、課題やテーマについて活発に意見交換が行われたり、情報提供があるなど、サービスの質の向上に具体的に活かされている。</p> | | |
| 6 | 9 | <p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | <p>運営推進会議への参加のみでなく、市の担当者とは窓口や電話で頻繁に交流している。地域のおんしんすこやかセンターとは相互に相談・連携をとり合っている。神戸市からの共用型デイの見学を受け入れたり、管理者研修の講師を受けるなど、市町村と協働関係を構築し、継続している。</p> | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|----|--|---|---------------------|-----------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている</p> | <p>ご家族の面会が多く、面会時には必ず職員からご家族に、生活の様子などを個別に詳細に報告している。月に1回発行のホーム便りでは写真を多数掲載し、フロア毎にご利用者の表情から日々の暮らしが伝わるように構成されている。緊急時や随時の報告には、主に電話・メールを活用している。また、家族会・懇親会も、報告の機会としている。</p> | | |
| 8 | 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>日頃からご家族の面会が多いため、面会時にご家族から意見・要望がうかがえるように職員の方から積極的に働きかけている。運営推進会議・家族会・懇親会・行事などでも、活発に意見交換ができるような雰囲気作りに努めている。収集した意見・要望は、「ご家族との連絡ノート」に詳細に記録すると共に、申し送りノート・カンファレンスなどでも職員間の情報の共有を図り、問題解決・要望の実現などに向けて全員で取り組んでいる。また、定期的に満足度調査を行い、サービスのさらなる向上に活かしている。</p> | | |
| 9 | 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>基本的には職員の異動はなく、ご利用者と馴染みの関係が構築され、ご利用者の安心・安定に結びついている。また、朝の礼拝・行事の際は他のフロアのご利用者・職員との交流もあり、ホーム全体での馴染みの関係も作られている。職員の離職はほとんどなく、職員の結婚退職の際に結婚式に参列するなど家族的な関係が築かれている。法人は、職員に対してのケアの必要性を重視し、コミュニケーションを大切にし心のケアを図ると共に、能力・希望に応じた職員育成に力を入れ、向上心を持ち続けられる環境作りに取り組み、離職の抑制につなげている。</p> | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|---|---------------------|-----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>新入職員には指導担当者による3ヶ月間のOJTが行われる他、スタッフ研修・若手リーダー研修・リーダー研修など、実践の習熟度等に応じて、段階的に力をつけていけるような法人内研修計画が立てられている。外部研修についても積極的に受講を勧め、受講後は報告書を作成し、職員間で回覧し、カンファレンスで伝達研修を行い、知識の共有を図っている。また、今年度から、スウェーデンとの交換留学が実施される。</p> | | |
| 11 | 20 | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>法人内の他のグループホームとの間で、見学・交流が行われ、サービスの質の向上に繋がっている。法人内の内部研修が、職員間の意見交換・交流の機会にもなっている。法人外のグループホームからの見学の申し入れも多く、積極的に受け入れている。宅老所・グループホーム全国ネットワークにも加入し、情報収集・連携を行っている。</p> | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>入居前に、ホームを見学して雰囲気を体験していただくようにしている。ご自宅などに訪問し、生活環境・生活習慣・身体状況・緊急度などを把握している。共用型デイの利用・見学・行事への参加・宿泊など、利用者個々に合わせて安心・納得を大切にした入居に繋がれるように取り組んでいる。</p> | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|---------------------|-----------------------------------|
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | 利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている | 生活の場面の中で、職員がご利用者から学びながら協働し、ご利用者が無理なく役割意識を持ち過ごされている。ご利用者同士も、気遣い支えあう関係が築かれており、家族的な暖かい雰囲気を感じられる。ご利用者と職員がゆったりとコミュニケーションをとりながら、喜怒哀楽を共に過ごされている。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式・個人史を導入し、入居時に詳細なアセスメントを行い、ご利用者・ご家族の思い・意向の把握に努めている。入居後も、日々のコミュニケーション・表情などから、新たな思い・意向やまたは変化を把握し、個人記録への記載・カンファレンスなどで、職員全員が共有し、ケアに反映できるように取組んでいる。 | | |
| 2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | ご利用者・ご家族との面談・センター方式によるアセスメント・自分史・医師のアドバイスなどに基づいて、居室担当者・その他の職員からの意見を聴取し、その人らしい生活を支援できる介護計画を作成し、ご利用者・ご家族に説明し同意を得ている。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|----|--|---|---------------------|-----------------------------------|
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>3ヶ月に1回の定期的な見直しを実施する他、日々介護計画に基づいたケアを日々実践する中で気づきや情報を職員間で共有し記録に残し、随時のケースカンファレンスを通じて実情に応じた介護計画の見直しを実施している。見直しの際には、家族・本人にも同席してもらい計画を作成している。</p> | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> | <p>特別な外出支援はもとより、通院や外泊など本人・家族状況や要望に対して柔軟な支援を行なっている。また、医療連携体制を生かして重度化した場合も本人・家族の意向に沿って臨機応変な対応をしている。</p> | | |
| 4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>本人・家族の希望に応じて、利用前からのかかりつけ医で継続的な医療が受けられるよう支援する他、協力医療機関より本人・家族の希望・状況に応じて適切な医療が受けられるように支援している。利用者それぞれのかかりつけ医とはこまめな情報のやりとりを行い関係を築いている。</p> | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|----|--|---|---------------------|-----------------------------------|
| 19 | 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | <p>入居時より重度化や終末期の説明を実施し、本人・家族の希望があればかかりつけ医とも話し合いを行い最期まで看取る方針である。また、出来る限り対応可能なことは提供しようと考えており、希望があれば葬儀もホームで行うことも可能である。終末期における介護マニュアルを作成しており最期までその方らしく生活できるように家族・かかりつけ医と繰り返し話し合いを行うだけでなく、関係職員の統一を図り支援している。看取りの後には看護師が関係職員にアンケートを実施し関係職員の悩みを解決するように配慮している。</p> | | |
| <p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p> | | | | | |
| 20 | 50 | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | <p>入職時にオリエンテーション・研修で説明し契約書を交わしている。スタッフ研修で毎年個人情報やプライバシーなどの研修を実施し利用者の尊厳やプライバシーを損ねない対応・支援の継続的な意識付けを行っている。</p> | | |
| 21 | 52 | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>一人ひとりのその日、その時の希望やペースを把握し、希望や要望にあった過ごし方を支援している。利用者が自分の希望や要望を気軽に言いやすい雰囲気作りに努め、希望があれば出来る限りその時に対応し利用者の生活ペースに合わせた支援を柔軟に行なっている。</p> | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|--|---------------------|-----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご利用者に希望を聞きながら1週間分の献立を立て、買い物・調理・後片付けまで利用者個々の状況に合わせ参加できるように支援している。ご利用者同士で声を掛け合い後片付けする姿も見られる。また、ご利用者と職員が同じ食卓で談笑しながら食事を楽しむ家族的な食事風景が見られた。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 朝や夜間の入浴には、他のフロアーと協力しながら利用者個々の希望に沿った入浴ができるよう支援している。入浴を嫌がる利用者に対しては、言葉かけや対応の工夫を行い利用者から入浴希望がでるような雰囲気作りに配慮している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者一人ひとりの習慣や趣味・好み・得意な事などを把握し楽しみごと、役割を果たし、その方らしく過ごしていけるよう支援している。また、年齢を重ねたり認知症が進む中でもホームで生活する中で新たな役割・楽しみごとが継続できるように支援している。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援している | 買物、散歩など気候の良い時期はほぼ毎日外出している。気候やご利用者の状況に合わせて、他のフロアーやベランダに出て、気分転換や外気欲の機会を作っている。屋上には、パラソルのついたテーブルセットがあり、屋外でのイベントや日常的なお茶の時間に活用されている。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|---------------------|-----------------------------------|
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員は鍵をかけることへの弊害について十分に理解しており、日中は玄関・エレベーターには鍵をかけず利用者の安全性を確保しながら自由な暮らしを支援している。また、言葉や態度・雰囲気などで利用者の行動に制限をしないように取り組んでいる。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回昼夜を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議を生かして、非常災害時に利用者の安全が守れるように自治会に理解と協力を求め支援体制の整備に取り組んでいる。非常災害時の食材や水などの備蓄も準備している。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 日々利用者と関わる中で、食事の好みや食事・水分の摂取量を把握、チェック表に記載し情報を共有し些細な変化を見逃さず利用者一人ひとりがその人らしい暮らしの継続ができるように支援している。法人内の栄養士に献立のチェックを受けカロリーの過不足や栄養の偏りが起こらないように助言を受けている。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|---|---------------------|-----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| | | 居心地のよい共用空間づくり | | | |
| 29 | 81 | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 人の気配を感じながらも少人数で過ごせる場所を大切に考え家具を配置している。季節ごとに、利用者と話し合いながら季節が感じられる飾り付けを行うようにしている。 | | |
| | | 居心地よく過ごせる居室の配慮 | | | |
| 30 | 83 | 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族に使い慣れた家具や小物の持ち込みの協力を得て、利用者個々の個性が感じられる趣味が活かされた居室が作られている。 | | |

は、重点項目。